

デ・カップリングの発想を、 自家薬籠中のものにするために

うね 豊
字 根

米をカネにするのに、躊躇しなくなったのに、まだ赤トンボやメダカや畦の花はカネにしようとしなない。そういうこの国の百姓の古き良き伝統では、農業が生み出す自然環境は評価されないだろう。デ・カップリングの議論が低調なのは、従来の農業政策が「生産偏重」だということと、もう一つの原因がここにある。そこで、私たちはこういう議論を、始めている。

1. 定義

私はデ・カップリングをこう定義する。

「大切なものだけれども、カネにならないために（生産に直接寄与しないがために）軽視され、見捨てられようとするモノとコトに対して、国民みんなが評価し、支援する政策」、要約すれば「カネにならないものを大切にす政策」と。

2. だれが要求し、だれが認めるか

デ・カップリングは一人一人の百姓仕事の中から、地域でのくらしの中から発想されなければならない。なぜなら、カネにならないけど大切なモノは、個人によって異なるし、地域によって異なるからだ。そういうものを掘り起こし、確認し、表現し、要求できるのは、そこに住む人でないと無理ではないだろうか。負担になっているそうしたモノやコトにどういった助成や支援が必要かを議論する場がなければならない。新しい政策はそうやって始めたい。

3. 行政の役割

現在のデ・カップリングの議論を聞いていると、カネとりが目的のような、あるいは西欧の政策の直輸入のような、あるいは地域の住民や百姓の影すら見えない議論ばかりが横行している。つまり、未だに「公」からだけ

しか発想できない体質が露骨に現れている。「私」から発想し、「公」につないでいく回路が、この国の政治や行政には希薄なのだ。

だから、デ・カップリングの「認証」の事務局は市町村の役場に置き、地域の住民が審査する。審査基準も市町村でつくる。

百姓が感じるカネにならない「私益」（めぐみと言ってもいいだろう）こそが、「公益」だと、私は主張している。かつての「公益」は「生産」をあげることであった。カネになった。でも、もうこうしたカネ儲けは、公益から滑り落ちた。

4. 住民・国民への説明

当然、デ・カップリングの支援策は住民や国民に説明せねばならない。だって、税金をつぎ込むのだから。もちろん当事者が自分の言葉で語るべきだ。そのためにも、アグリミニマムの考え方とアグリチェックを深めなければならない。

5. おかしい農水省案？

農水省はデ・カップリングを、条件不利地域＝中山間地域に限定しようとしているようだ。つまり、平坦地はあくまでも生産性向上路線で農政を推進し、条件不利地域だけに生産性が劣る分だけの助成をしようというのだ。これでは、何の農政の転換にもなりはしない。

しかも、面積割りか戸割りの直接所得補償を行うつもりらしい。これではカネにならないモノを大切にするという目的は、国民には伝わらないだろう。さらに致命的なのは、これでは地方自治体の農政は再生しない。また霞が関から、農政が舞い落ちてくるだけではないか。

6. デ・カップリング試案

百姓や住民が提案するデ・カップリングの指標案、モデル案は提案しておくべきだろう。あくまで参考例として。助成・支援対象は、

①カネにならない仕事だけれど、大切なモノ

ノ。

（畦草切り，農道・用水路の管理）

②儲からない仕事だけれど，価値がある。

（畦草・山草で牛を飼う。棚田で米をつくる）

③必要性が薄らいでしまったが，大切なモノ。

（落ち葉・枯れた枝を燃料にする）

④定住するために，必要なこと。

（集落の維持。分校の維持。町に下宿に出すときの奨学金）

⑤環境を豊かにする技術の研究開発。

（百姓への研究開発費）

⑥環境を守るために生産が制約される作付。

（水の通し田の作付。環境稲作（無農薬栽培・生きものを守る水管理）。適正な放牧）

⑦身近な環境を大切にする暮らし。

（薪で米を炊いている。水車で米をついでいる）

⑧地域環境を大切にする暮らし

（味噌や野菜を自給している。下肥を活用している）

⑨生産性の低い農地や里山を守る。

（相続税の猶予。生産緑地としての助成）

⑩新規就農者への生活補償

私たちの議論は今晚も続いている。ひとりの百姓の女性の声を紹介しよう。

「最近では農村でも，人や犬の散歩が多くなりました。その人たちは，歩きながら田畑の風景も楽しんでいるだろうと思って，わたしは，畑にも草を生やさないようにしているし，畑のまわりや畦にも除草剤をかけないようにしています。緑の中で，除草剤によって，茶色に立ち枯れの状態になっているのを見るたびに，わたしは気分が悪くなります。散歩する人もきっと同じ気持ちでしょう。

でも，わたしもだんだん年を重ねたら，身体がきつくなって，人のことをかまう余裕もなくなり，茶色の草を人の目にさらしても，なんともないようになるかもしれません。いい草刈り機械ができたときには，国の助成があればいいな—と思います。」

こういう百姓の心情と行為を評価するところからのみ，みんなが支持するデ・カップリングが生まれるのである。

（福岡県二丈町・県農業者大学校）